

◆こどもの将来

生活 P.29～30、62～63

進学希望については、高校以上の進学を望むこどもが大半となっているが、こども自身や保護者の考えから、経済的な理由で制限を受けている回答が見られる

将来、どの段階まで進学したいかを尋ねたところ、「大学またはそれ以上」が中学生で38.6%となっています。「まだわからない」という回答を除くと、ほとんどが高校以上の進学を望んでいます。一方で、その進学を望む理由の中で「家にお金がないと思うから」「早く働く必要があるから」といったこども自身の回答や、「家庭の経済的な状況から考えて」という保護者の回答があり、経済的な理由で制限を受けている回答が見られました。

◆こどもの貧困

生活 P.69～71

子育て世帯全体の約1割は経済的に厳しい状況にある

本市の子育て世帯の年間収入と世帯人員から算出された等価世帯収入の中央値は325万円、中央値の半分は162.5万円と推計しました。等価世帯収入が中央値の半分未満の世帯は、全体の1割程度を占めています。この中には、過去1年の間に、光熱水費等の生活に必要な費用や家賃、社会保険料等のいずれかを経済的な理由で払えなかった経験を有する世帯が3～4割、急な出費に備えた5万円以上の貯金または現金を持たない世帯が3割以上を占めており、経済的に厳しい状況の中で子育てをしている世帯があることが示されています。

家庭の経済状況が、こどもの生活・体験・将来等に影響していることが前述の様々な状況からうかがえます。こうした現状があることを前提として、貧困が世代を超えて連鎖することがないように、それぞれのニーズに合った支援について検討していく必要があります。

◆ヤングケアラー

こ計 P.107～109

生活 P.22～25

こどもの3～4%がヤングケアラーの状態にある

家庭での手伝いや仕事の役割を持ち、睡眠を削ったり、学校に行けなかったり、勉強や遊ぶ時間を減らしたりしていると回答した、いわゆるヤングケアラーの状態にあるこどもが、小学5年生で3.7%、中学2年生で2.6%、中学3年生で3.2%、高校生で4.4%となっています。そのうち小学5年生5.5%、中学2年生13.1%、中学3年生18.2%が「1日に4時間以上」の手伝いや仕事をしていると回答しており、非常に負担が大きい生活をしているこどもが見られることから、周囲の大人を含めてヤングケアラーに関する理解や見守り、支援の取組が必要です。